


様式(細則 5-2)

平成23年 3 月 14 日

浜田市議会議長 牛 尾 博 美 様

議員名 中 村 建 二 

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成22年 11月9 日 ~ 11月 11日
2. 視察又は訪問先 (田辺市農業法人(株)秋津野
秋津野カヒデン(グリーン ツーリズム施設)
3. 調査経費 32,512 円
4. 調査研究活動の概要 別紙



調査研究活動の概要

1. はじめに

浜田市においては、小中学校の統合により廃校となった旧校舎や用地が活用されずそのままとなっているものが何か所か存在している。また、今後も児童数の減少による学校統合が検討されている。

何らかの形でこれらを地域の活性化に有効利用できないか、との問題提起の基に我々同僚議員6名は、校舎新築移転に伴い、旧校舎、用地を活用し、都市と農村を結ぶ、体験交流型グリーンツーリズムに取り組む和歌山県田辺市、上秋津地区、農業法人株式会社秋津野ガルテンを訪問することにした。

2. 行程および日程（2泊3日）

平成22年11月9日9時、レンタカーで浜田市役所出発。
同日、午後4時、秋津野ガルテンに到着。同施設「農ある宿舎」に入る。
同施設「農家レストラン みかん畑」に於いて夕食。

11月10日10時～12時、同中核施設（旧上秋津小学校）研修室で説明を受ける。（田辺市議会事務局長、市農業振興課係長、秋津野ガルテン玉井副社長の3氏）。

12時30分「農家レストラン みかん畑」昼食

14時～ 「秋津農産物直売所 きてら」視察

17時 市、中心街 田辺市、シティホテル宿泊

同11日9時 シティホテル出発——浜田市、17時帰着

3. 研修事項

(1) 田辺市の概要（平成17年10月1日現在）

平成17年5月1日、田辺市、他4町村合併（新田辺市となる）

面積 1,026.74Km²（内山林89.1% 農用地3.6% 他7.3%）

人口 82,499人 世帯数 32,499

農家戸数 3,581戸

延べ作付面積 3,500ha

主要作物 水稻415ha 野菜193ha 果樹2,610ha（梅、柑橘）

(2) 上秋津地区の概要

人口 3,350人 1,150世帯 平成の初め人口 2,400人 600世帯
人口増加が続く農村 農家戸数 303戸 専業農家 131戸 (平均年収 5
~600万円)

新田辺市の西に位置

年間平均気温 16.5℃ 降水量 1650mm

田辺中心市街地より車で10分 阪和高速インターから7分 白浜空港ま
で20分

主要作目 梅、柑橘類 (80品種、周年収穫体制)

梅・柑橘の複合経営

農業主体の地域 企業誘致は考えない

景気の低迷により、みかん類、梅の需要が減退。直販、宅配、加工に力
を入れる。

後継者不足の傾向

農振地域の宅地化、混住化が進行している } 課題

(3) 秋津野ガルテンについて

- ① 「秋津野マスタープラン」策定事業 平成12年から3年かけて策定10
年先を見据えた計画書。その背景は
農地の宅地化・混住化が進む地域のあり方や、後継者不足、経済不況へ
の不安は将来の農業への不安 ⇔ 地域への不安からこれまでの地域づ
くりの検証と将来にわたる地域づくりの計画が必要と考えた。

1. 地域社会の構造と意思決定システム
2. 土地管理の現状と今後の土地利用
3. 地域農業の活性化と地域資源の活用

- ② 小学校移転計画を機に平成14年、現校舎利用活用検討委員会を立ち上げ
1年かけて基本的考えを市長に提言。内容は教育、体験、交流、宿泊をキ
ーワードとした利用、旧小学校を核としたグリーンツーリズム事業、マ
スタープランの具体化。

- ③ 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業

事業名 田辺市都市農村交流促進施設整備事業 (上秋津地区)

事業実施年度 平成19、20年度

竣工 平成20年10月1日 (平成20年11月1日オープン)

事業主体 株式会社秋津野 (地元農家中心に本事業のため設立)

(設立時)

資本金 3,300万円 1株2万円
出資者数 398名 (うち地区内出資者数 266名 地区外出資者数
132名)

事業内容

体験交流施設1棟 旧小学校舎、耐震化事業	37,478,906円
農家レストラン新築1棟	21,581,387円
宿泊施設(32人定員)1棟	50,670,189円
計	109,730,482円

交付対象事業費(消費税分を除く) 104,505,222円

財源内訳 国50% 県12.5% 市12.5% 地元25%

補助対象外事業 市民農園 合計70区画 1区画30m²

年間利用料3万円

オーナー樹 みかん 700本 梅 50本

年間利用料 1本当たり2万円

④ ガルテン人員

役員 3~4人 無報酬

事務員 1人

パート 40人

⑤ ガルテン利用状況

平成21年4月~22年3月末までの1年間

約60,000人の有効利用状況

4. 結びに

- ① 上秋津地区は、時代の変遷の中で恵まれた自然を活かしながら、常に農を中心に一貫した地域づくりが取り組まれたきた地域である。秋津野ガルテンもそうした住民の地域づくりの中から誕生したものである。

その中で旧小学校も地域のシンボルとして立派に活用されていることに感心した。

- ② 学校統合は、時代の要請で避けられないとするならば、地域のシンボルともいえる学校が廃校となる地域にとっては大きな衝撃となる。早い段階から次なる地域づくりについて住民自らじっくりと取り組み必要があ

る。

- ③ グリーンツーリズムについては、本市でも、地域づくりの一つの方法として始められてはいるが、点と点では継続的な発展は望めないのではないか。中心となる、しっかりとした核となるものが需要で受け皿となる農家や、地域社会全体的な体制を構築することが大切と思われる。

何れの場合も地域づくりを継承していく「人」、「システム」づくりが必要であり、改めて地域づくりは人づくりであり、人づくりは地域づくりに繋がる事を再確認した。

今回、短い工程ではあったが、有意義な視察をすることができた。